



北海道北見支援学校 コミュニティ・スクールたより

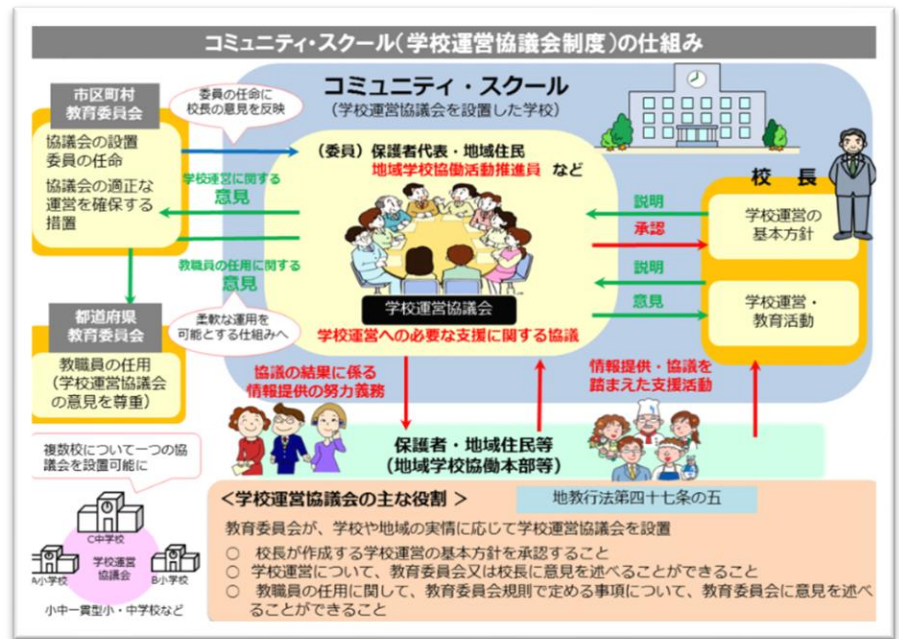
～第1号～

令和8年6月3日(水)
北海道北見支援学校
学校運営協議会事務局

本校のコミュニティ・スクール(CS)は、令和5年度より導入され、今年度で4年目を迎えます。今年度も、コミュニティ・スクールの機能を活用しながら活動をすすめていきます。

コミュニティ・スクールとは、学校と保護者、地域の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。コミュニティ・スクールには保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動

などについて意見を述べたりするといった取り組みが行われます。これらの活動を通じて、保護者や地域の皆さんの意見を学校運営に反映させていきます。学校運営協議会は、今年度3回の活動を予定しております。この



コミュニティ・スクールたよりを通じて、活動の様子をお伝えしていきます。

■ 第1回学校運営協議会

来校いただきすぐ、高等部の新校舎内をご案内いたしました。「なら、きはだ、たも、にれ、かば」など道産の木材をふんだんに使った内装、太陽光発電使用、教室内エアコン完備、廊下はロスナイ 24 時間換気(温度と湿度をキープした換気)であり、環境にやさしく、無駄のない「エコ」な校舎となりました。広くて新しい素敵な校舎は、子どもたちにとって一層充実した学びが期待される環境であることを委員の皆様と共有しました。

校舎参観後、会議をスタートしました。始めに、参加者の自己紹介後、校長より今年度の学校経営方針及びグランドデザインについて説明があり

りました。グランドデザインは、教職員はもとより、保護者、地域、関係機関の方々に本校の教育方針が明確に、簡潔に伝わるように作成されていること、先生方の指導の根拠として明確になるものとなるために、具体的な取組を下段に示されているなど説明がありました。また、学校運営協議会の取組について、「熟議」「協働」「マネジメント」をキーワードとし、「熟議」の場の設定は、「地域でどのような子供を育てたいのか」「何を実現したいのか」という目標・ビジョンを共有するために「熟議」を重ねること、「協働」による取組ができる体制整備は、

○令和8年度学校運営協議会委員

1	瀬野 雅人	瀬野農産代表
2	清川 友太	北海道北見支援学校PTA会長
3	齋藤 志栄子	公益財団法人北海道YMCA 北見YMCA ディレクター
4	柴山 小百合	社会福祉法人川東の里施設長
5	高橋 廣志	鐘ヶ江建設株式会社代表取締役
6	三浦 鶏一	北見市手をつなぐ育成会会長
7	茗荷 昭子	北海道北見支援学校元PTA会長
8	和泉 至幸	北見市教育委員会スポーツ課長
9	橋本 誠治	北見市総務部危機管理課長
10	前田 陽子	日本赤十字北海道看護大学准教授
11	土居 彰一	北海道北見支援学校校長

第1回 学校運営協議会 5月26日(火)

- 1 開 会
- 2 学校長挨拶
- 3 参加者の自己紹介
- 4 令和8年度学校経営方針及びグランドデザインについて
- 5 説 明
- 6 グループ熟議
- 7 グループ発表
- 8 学校長挨拶
- 9 閉 会

<グループ熟議内容>

- ・地域資源を活用した教育活動
- ・地域資源の活用推進(働き方改革)
- ・本校の認知度アップ
情報発信の充実

学校運営に地域の人々が「参画」し、共通の目標に向けて「協働」して活動すること、校長の「マネジメント」力の向上では、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行うことが大切だと考えています。

次に、教頭から昨年度のCSにおける熟議内容について説明後、各学部主事から各学部における地域交流の現状と課題等を説明しました。昨年度、「PTA 活動の参加率を高めるためには」

「教育活動の充実させるためには」「本校の認知力アップのために」が話題でした。また各学部から今年度計画している地域資源を活用した学習及び課題をそれぞれ説明しました。これらの話題をもと3グループによる熟議を行いました。

<地域資源を活用した教育活動>では、「本校の地域交流学習は様々内容があり、力を入れていることがわかった」という感想がありました。地域資源を活用した教育活動として、「防災の

学習」「性教育」の出前授業が可能であること、校外学習は、「気象台(網走)で地震装置など使用して体験的な授業」「鹿の角で加工や、絵を描いて個展を開いている方がおり、相談可能」「YMCA のアメンボの会とコラボし、水泳体験可能」「パン作りや豆腐作りは、交通手段があれば場の提供可能」というお話がありました。また、「インクルーシブ美幌(震災の映画)貸出可能」「木材の提供可能。サイズや寸法などが分かるとよい」「タイルの提供可能」「北支祭で縁日をするならスマートボールを貸出可能」「ボッチャ、フロアカーリング貸出可能」「農業体験は今後も協力可能。育てやすいのは、枝豆などの豆類や長ネギ」「廃材の提供協力可能」など、材料提供可能というお話がありました。また、授業のアイデアとしては、「作業体験学習で、ご褒美として寄付を募って生徒の励みにするのはどうか」「金銭の扱いについて、(警察などの)出前授業等を活用できないか」「熊対策は、農林水産課でマニュアル作りなどのアドバイス可能。市街地に出た場合は環境課」「今後、地域交流の拡大を目指すなら、『体験学習と同世代交流』がキーワード。体験学習は、ニーズが高く、日常とは違う楽しい学び。映像ではなく、生の教材であることが大切」「同世代(学生)との交流は地域で長く関わりが持てるため有効」「地域の学校の遠足のゴールを本校にし、小さな交流会をしてみても」「(放課後)デイサービス交流(社会人の施設交流の縮小版)に場の提供」というお話がありました。

<認知度アップ>では、「新校舎のデザインや機能などを今後の校舎増築や改築する市内の小中学校にも発信していけるとよい」「PR について、事業所が持つ販売カーで拡散可能」「HP の QR コードの配付やイベントのお知らせなど協力可能」「説明や数量があれば、店頭置くことや、他に発信もできるかもしれない」「情報収集は、全国の好事例を集める。研修会で人脈を作る。メールマガジンなどを利用」「情報発信は、市政記者クラブを利用すると報道関係に一度に情報がまわる」「協力したいが、やはり具体的な説明や考えを発信する必要がある。遠慮してしまうかもしれないが、伝えることが必要」というお話がありました。

■今後について

今回は、学校における地域との現状について説明後、グループごと熟議を行い、本校に対する様々な意見をいただきました。今年度進めるにあたって、参考となる貴重な意見をいただく機会となりました。次回も熟議を行う予定です。実りある熟議ができたと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

第2回目は、10月19日(月)～23日(金)のうち、委員の皆様のもっとも参加いただける日程を調整し、設定いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。